

第3期計画策定に係る主な論点及び委員意見・提言の募集について

I ライフステージ別の重要事項（こども大綱）**1 こどもの誕生前から幼児期まで**

- ① 保護者の就業の状況にかかわらず、特に3歳未満児の子育て当事者に対する支援
- ② 幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を担う重要なものであることを踏まえ、安全・安心な環境の中での幼児教育・保育の質の向上を図る。
- ③ 保育士、保育教諭、幼稚園教諭等の人材育成・確保、現場の負担軽減、職員配置基準の改善

【論点1】

- ・ 医療的ケア児、障がい児、家庭環境に特別な配慮が必要な家庭の子どもなど、保育のニーズは多様化しています。
- ・ また、地域で子育て世帯が孤立しないように、普段、保育所等を利用していない子どもが保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」が令和8年度から全国一斉に実施される予定です。
- ・ その一方で、保育の現場では近年、保育士等の不足が課題となっています。

→ 必要な人材育成や確保などの面で、どのような対策が有効であると考えますか。

I ライフステージ別の重要事項（こども大綱）**2 学童期・思春期**

- ① 居場所づくり
- ② こころのケアの充実
- ③ 成年年齢を迎える前に必要となる知識に関する情報提供や教育

【論点2】

- ・ 放課後の子どもの遊びと生活の場である放課後児童クラブなどをはじめ、こども・若者の視点に立った多様な居場所づくりが必要とされています。

→ 地域資源（既存の公共施設や民間による活動など）を活用するなど、新たな居場所のあり方について、どのように考えますか。

II 子育て当事者への支援（こども大綱）

- ① 子育てや教育に関する経済的負担の軽減
- ② 地域子育て支援、家庭教育支援
- ③ 共働き・共育ての推進、男性の家事・子育てへの主体的な参画促進・拡大
- ④ ひとり親家庭への支援

【論点3】

- ・ 共働き世帯が増加傾向にある中で、例えば、女性が働きながら子育てしやすい環境づくりや、男性の家事・子育てへの主体的な参画促進や拡大などが求められています。

→ 共働き世帯への有効な支援策について、どのように考えますか。